

うちの子 家で勉強しないんです

家庭学習の必要性は分かっているけど、「何をしたらよいか分からない」と頭を抱えている子供たちや保護者が大勢います。

そんな子供たちや保護者に対して「家庭学習を定着させるヒントになれば」と行田市教育委員会では、学力向上推進委員会を設け、冊子「家庭学習のすめ」を作成しました。

この冊子を親子で手に取り、家庭学習について語り合ってみませんか。



図1 PISAによる日本の順位の変動

【2000年32カ国】

順位	読解力	数学的リテラシー	科学的リテラシー
1	フィンランド	日本	韓国
2	カナダ	韓国	日本
3	ニュージーランド	ニュージーランド	フィンランド
4	オーストラリア	フィンランド	イギリス
5	アイルランド	オーストラリア	カナダ
8	日本		

【2006年57カ国】

順位	読解力	数学的リテラシー	科学的リテラシー
1	韓国	台湾	フィンランド
2	フィンランド	フィンランド	香港
3	香港	香港	カナダ
4	カナダ	カナダ	台湾
5	ニュージーランド	ニュージーランド	日本
10		日本	
15	日本		

〈文部科学省ホームページから〉

用語説明

- ▶ PISA・・・国際的な学力の位置付けを測る基準としてOECD（経済協力開発機構）が行っている学習到達度調査。義務教育の終了段階にある15歳の子どもの対象に、読解力、数学的リテラシー、科学的リテラシーを調査するもの。
- ▶ リテラシー・・・読み書き能力。また、与えられた材料から必要な情報を引き出し、活用する能力。

日本の学力は大丈夫なのか

図1は、PISA（学習到達度調査）の結果です。日本の国際順位は平成12年（2000）の調査で、読解力は平成12年（2000）の調査で、読解力は8位、数学的リテラシーは1位、科学的リテラシーは2位でした。ところが、平成18年（2006）は読解力は15位、数学的リテラシーは10位、科学的リテラシーは5位とすべての科目で順位を下げっており、学力低下が懸念されています。

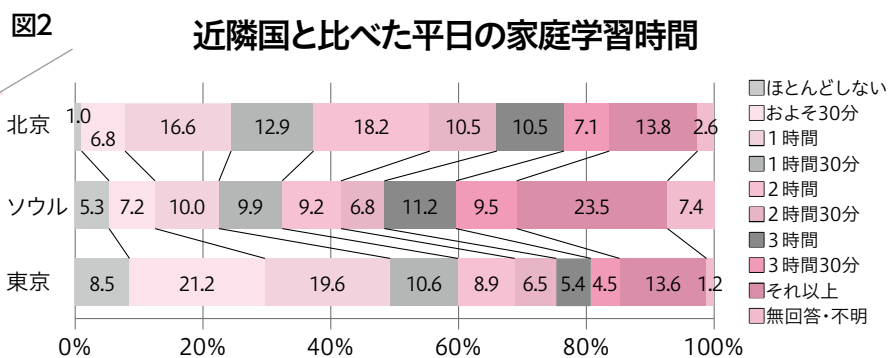
心理学者エビングハウスの研究によると、完璧に覚えたつもりでも、1日経過すると7割以上が記憶から消えてしまうといわれています。

学校の授業で覚えたことも、反復しなければ7割は忘れてしまうのです。しかし、反復することで忘れる割合は大幅に低くなることも、心理学者ラッセルによって証明されています。

「予習→授業→復習」のサイクル化を図ることは極めて大切なこと。家庭学習の習慣化は、学力低下を食い止めるために、なくてはならないものなのです。

日本の子ども事情

日本の子どもの家庭学習の時間をチェック



「学習基本調査・国際都市調査」(Benesse教育研究センター2007年)

図2は、首都に住む小学生が、平日にどれくらいの時間を家庭学習に費やすかについて、近隣の国と比較したものです。ソウル（韓国）では、全体的に家庭学習の時間が長いことがわかります。小学生の60.2%が2時間を超えており、さらに3時間以上学習している小学生は44.2%と東アジア3国の中で最も多く、学習量が顕著に多いことがわかります。これに対し、東京（日本）の子どもの家庭学習の時間はいかがでしょうか。家庭学習をする時間が「およそ30分」「1時間」という回答が多く、それぞれ21.2%、19.6%となっています。その一方で、3時間以上学習している小学生は23.5%もいます。この数字から、家庭学習の時間が二極化していることが読み取れます。つまり、同じ教室に学習時間が短い子どもと長い子どもがいるということなのです。